

山寺通信 2月

異常気象の影響でしょうか、天候不順が続いています。体調管理にぜひお茶を勧めたいですね。お茶離れと言われて久しいですが、基本的には急須でお茶を飲むことが一番適しています。日本の急須はシニア世代では一番使い易い優れものです。でも **今の子供達には使いにくい厄介な代物です。意味のない手が横についているからです。** さらにお湯を入れるので熱いですね。もう少し具体的に調べてみます。



子供は急須を上から見ていますから、この厄介な棒を上からわしづかみし、うまく動かせません。まず横から手を添えて握る事から教えなければなりません。仕組みを理解していないと思いつかないですよね。 大人は、軽く握って片手で簡単に操作します。手首を捻るだけでいいのです。横から握るから手首が回ります。それと蓋は、押さえていないと落ちることも教えないとわかりません。大人には簡単でも、**子供には未知の世界ですね。** (T1 グランプリの写真使用しました)

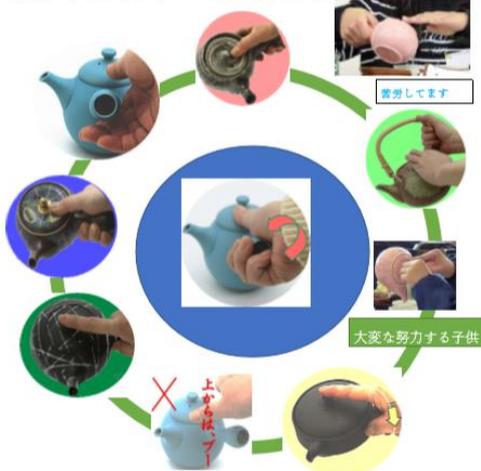


急須の握り方がお茶を身近な物にする

何のことも **急須** が正しく使えれば

手の動きが少ない **「超簡単じゃん」**

横からつかんで 手首を回すだけ



横手の急須は、焼き物としてはとても作りにくいものです。まず力のかかる手を同じ粘土で接着して、焼成します。**1000度以上**の高温では、一般には窯の中で柔らかくなり垂れます。ですから昔の急須は手を短くしました。**一番右のような変則的な握り方になります。**原料の改良や温度管理で垂れを止め、持ち易い長い手にすることができるようになりました。そして長さは、接着する手の角度で握りやすさを調整しました。その他にも手で引っ張られて蓋をのせる部分が歪むこともあります。横手とは、とても厄介な物です。でも使う人にはとても重宝なものです。学習しなければ使いこなせません。

この A3 のポスター

子供達に教える急須の持ち方

荷物に入れます。

(株)山寺